

道徳指導案

1 主題名「希望をもって」

- 1－(6) 個性の伸長
- 1－(2) 不撓不屈、希望、勇気

2 資料名「おじいちゃんへの金メダル」

3 ねらい

自分の良さや特性に気づき、目標を持って自分の夢を実現しようとする意欲を高める。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人はだれでも、他の人にとって代われない個性を持っている。「障害」もその人の持っている個性にとらえ、自分を高めていく糧と考えることができるようになった新田さんの気持ちの変化を学習する。自分の良さや特性に気づくとともに、個性を伸ばしていこうとするきっかけとしたい。

不撓不屈とは、障害や困難にくじけず、最後まで粘り強く着実にやりぬくことである。そのためには、身近な日常生活の中での小さな、しかも正しい目標の達成の繰り返しとその経験を通して、生きることへの希望や新しいことに積極的に取り組もうとする自信と勇気の育成を重視する。そうしてより高い目標に向かって努力する意欲を引き起こすよう図ることが大切である。この資料を通して、新田さんの努力や工夫に共感することが、目標を持って自分の夢を実現しようとする意欲の高まりへとつながっていくと考えた。

(2) 資料について

小さい頃、コンバインで片腕を失った新田佳浩さんの生き方を描いた実話である。新田さんは、西粟倉村出身のパラリンピックの選手である。

片腕がないため友達と同じようにはできないことも多くあった。「なんでぼくだけできんのんじゃろう。」と落ち込むこともあったが、その都度、工夫をしながらできる方法を考えた。

また、「腕を失ったのは自分のせいだ。」と父、茂さんは佳浩さんに話し、自分でできることはすべてさせた。まわりの温かい支えもあり、友だちや家族の中では「障害」をことさら意識することなく育っていった。しかし、高校のオープンスクールでの車椅子体験で、自分の「障害」を隠したいという気持ちを強く意識する。

「障害者スポーツ」に出会い多くの人と触れ合う中で、「障害」を「自分らしさ」ととらえることが徐々にできだし、心の強さへとつながる。

この資料を通して、新田さんの努力や工夫に共感させることにより、高い目標に向かって努力し、夢を実現しようとする意欲を高めることにつながっていくと考えた。

5 本時案

学 習 活 動	主な発問と (○) と予想される児童の反応 (・)	教師の支援 (◇) と評価 (◆)
<p>1 本時の学習を知る。</p> <p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>(1) 紐を結ぶ練習をしている時</p> <p>(2) 車椅子体験ができなかった時</p> <p>(3) パラリンピックに出ようと決心した時</p> <p>(4) ゴールした時</p> <p>3 VTRを見る。</p> <p>4 佳浩さんに手紙を書く。</p>	<p>○この写真の人を知っていますか。</p> <p>○紐がうまく結べない時、佳浩さんはどんなことを思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでできないんだろうか。 ・自分には腕がないからだろうか。 ・悔しい。 ・なんとしてもできるようにになりたい。 <p>○紐が結べたとき、佳浩さんはどんな気持ちになったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やればできる。 ・何十回もやってやっとできるようになった。 <p>○佳浩さんのがんばりを支えたのは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の励ましの言葉 ・友達の見守ってくれる気持ち ・父の言葉 ・おばあちゃんの工夫や温かい見守り <p>○車いす体験に参加できなかったのは、佳浩さんの心の中にどんな気持ちがあったからでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で恥をかきたくない。 ・片腕がないことを知られたくない。 ・できないところを見られたくない。 <p>○パラリンピックに出ることをためらったのはどんな気持ちがあったからでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は障害者ではない。 ・障害者スポーツはレベルが低い。 <p>◎パラリンピックに出ようと決意したのは、どんな心の変化があったからでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術が高い。 ・激しい練習をしている。 ・みんな明るい。障害をかくそうとしていない。 ・自分もその中でプレイしたい。 <p>○ゴールで倒れこんだ佳浩さんは、何を思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全力を出し切れた。 ・今までがんばってきてよかった。 ・自分ががんばれたのはみんなの応援があったからだ。 ・左腕がなかったからこそ、ここまでがんばれた。 <p>○学習して一番心に残ったことを手紙で知らせましょう。</p>	<p>◇写真を提示し、西粟倉村出身の新田さんについての学習をすることを知らせる。</p> <p>◇絵を提示しながら、資料の内容をおさえていく。</p> <p>◇小学校入学前のこと、片腕をなくすほどの大事故だったことをおさえる。</p> <p>◇何十回もやってやっとできるようになったことをおさえる。</p> <p>◇手を出さないことも佳浩さんを支えているのだということに気づかせる。</p> <p>◇父の言葉が佳浩さんが困難なことを乗り越えるときの心の支えになっていることを感じ取らせたい。</p> <p>◇車椅子体験を通して、自分の中に「障害を隠したい」という気持ちがあったことに気づいた佳浩さんの気持ちに共感させたい。</p> <p>◇パラリンピックに対して持っていたイメージが、練習に参加したことで変わっていき、障害を「負い目」から「個性」(自分らしさ)としてとらえるようになっていった心の変化を共感的にとらえさせる。</p> <p>◆佳浩さんの心の変化を共感的にとらえることができたか。</p> <p>◇資料で共感したことをもとに、「できないことをかくしたかった経験」を書かせるようにする。</p>